兮。飾文杏以爲梁。南部烟花記ニ隋ノ文帝、蔡容華ノ爲ニ瀟湘綠綺牕ヲ作クル上ニ黃金芙蓉花ヲ飾ル瑠璃網戶、文杏ヲ梁ト爲ス飛走動植ヲ彫刻ス値千金、〔杜詩、古柏行〕大厦如傾要梁棟。萬牛廻首丘山重。註ニ耿恭、岑彭ニ謂テ曰ク方今漢基頽圮シ英雄寒餓ス大厦ノ傾クガ如シ天下ノ義士ヲ求メテ梁棟ト爲スヲ要ス子、何ゾ此ノ如ク寒餓ス時ニ乘ジテ萬戶侯ヲ取ラザレバ何レノ時ヲ俟タンヤ梁武帝ノ詩ニ出家爲上首。入仕作梁棟。

○摘芳拾蘂錄（其二）

牧野富太郎

●尼入山食舞蕈語

（源隆國撰、井澤長秀考訂『今昔物語』倭部卷二十八）

今はむかし。京にありける木伐人ども。北山にゆくとて。道をふみたがへて。四五人ばかり山中をさまよいけるに。山の奥の方より。人の來るをとすあやしや何者の來るにやとおもふ所に。尼四五人ばかり舞をなして出來たり。木伐人どもこれを見て。これはよも人にはあらじ。天狗にや鬼神にやと怖れ居たるに。此尼ども木伐人どもを見つけて。より來れば。木伐人どもおそろしながら。是はいかなる尼君達の。深き山の奥より。かくは舞出たまふぞと問ければ。尼ども答て。我等かく舞來るをば。そこたちは定めておそろしと思ふらん。たゞし我等そこ〳〵にある尼どもなり。花をつみて佛に奉らんとて山に入つるが。道をふみたがへて。出べきやうなかりしに。うるはしき蕈のあるをみて。物のほしさにこれを取て。くはんとせしが。くひて醉もやせんとも思ひしぬれども。飢て死んよりはとて燒てくひつるに。きはめて甘かりければよき事なりとおもひて。多くくひしに。たゞかくこゝろならず舞るゝなり。心にもいとあやしき事とは思へども。やめられずといひける。木伐人どもあやしくおもひながら。物のほしかりければ。尼どもが食殘したる蕈を取てくらふに。心ならず舞けり。其後は尼どもゝ木伐人どもゝ。たがひに舞つゞけてわらひけり。かくてしばらくありて。醉のさめたるや

うになりて。道を尋得ておの〳〵歸りけり。それより後此蕈を。舞蕈（まひたけ）といふなりとなん。かたりつたへたるとなり

○明治十五年ニ東京デ近藤圭造氏ノ出版シタ活字版ノ『今昔物語集』表紙ノ表題ハ單ニ今昔物語トアルガアルガ此レニハ左ノ如キ文章デ出テ居ル、今昔物語ハ種々ノ寫本デ傳ハッテ居ッタノデ其文章モ一様デナイ様デアル

尼共入山食茸舞語第廿八

今昔京に有ける木伐人共數北山に行たりけるに道を蹈違て何方へ可行しとも不思えさりけれは四五人許山の中に居て歎ける程に山奥の方より人數來けれは怖く何者の來るにか有らむと思ける程に尼君共の四五人許極く舞ひ乙て出來たりけれは木伐人共此れを見て恐ち怖れて此の尼共の此く舞ひ乙て來るは定めてよも人には非し天狗にや有らむ𠮷鬼神にや有らむとなむ思て見居たるに此の舞ふ尼共此の木伐人共を見付て只寄に寄來れは木伐人共極く怖しとは思ひ乍ら尼共の寄來たるに此は何なる尼君達の此くは舞ひ乙て深き山の奥よりは出給たるそと問ひけれは尼共の云く己等か此く舞ひ乙て來ては其達定めて恐れ思らむ但し我等は其々に有る尼共也花を摘て佛に奉らむと思て朋なひて入たりつるか道を蹈み違へて可出き樣も不思て有つる程に茸の有つるを見付て物の欲きまゝに此れを取て食たらむ醉やせむつらむとは思ひ乍ら餓て死なむよりは去來此れ取て食むと思て其を取て燒て食つるに極く甘かりつれは賢き事也と思て食つるより只此く不心す被舞る也心にも糸怖しき事かなとは思へとも糸怖くなむと云に木伐人共此れを聞て奇異く思ふ事无限し然て木□人共も極く物の欲かりけれは尼共食殘して取て多く持ける其の茸を死なむよりは去來此の茸乞て食むと思て乞て食ける後より𠮷木伐人共も不心す被舞けり然れは尼共も木伐人共も互に舞つゝけて咲ける然て暫く有けれは醉の悟たるか如くして道も不思て各返にけり其れより後此の茸をは舞茸と云ふ也けり此れを思ふに極て怪き事也近來も其の舞茸有れとも此れを食ふ人必す不舞す此れ極て不審き事也となむ語り傳へたるとや

○亞弗利加喜望峰ヨリノ萬年菊

牧野富太郎

先ニ横濱市ノ友人久内清孝君ヨリ Everlastings ノ一種ヲ落手シタ是レハ大阪商船株式會社ノ汽船「シアトル」丸ノ事務長小石昌範君ガ南米カラノ歸途亞弗利加南端ノ喜望峰デ買ヒ求メ携ヘ來ッタモノデアッテ裝飾品トナシタ一ノ乾花デアル此ノ如ク乾イテモ何時マデモ其原形ヲ保ッテ居ルモノヲ Everlastings ト稱スルガ私ハ今之レヲ萬年花或ハ萬年草ト譯シタ此萬年花或ハ萬年草ニハ種々ノ種類ガアッテ彼ノむぎわらぎく（今日世人ハ之レヲ貝細工ト誤稱シテ居ルガ貝細工ト云フ植物ハ別ニアル、本誌ノ第一巻第一號ニ之レヲ辯ジテ置イタ）、かいざいく、こばんさう（たわらむぎ）、せんにちかう、しらたまほしくさナド皆